

一刀領談



しもじょう・まさお 長野 県出身。国学院大大学院博士課程修了。1999年から拓殖大学教授を務め、2021年3月末で退官。現在は島根県客員論説委員を務めた。73歳。

いたずらに古い価値観を守り、時勢に応じて対処できなかったとえどして、「株を守りて兔を待つ」の故事が中国の思想書『韓非子』に載っている。

宋の国の農民が、たまたま走ってきた兎が木の切り株にぶつかって首を折って死んでしまったところを見て、畑仕事をやめて兎が来るのを待ち続けたが兎は捕れず、国の笑い者になつたという話である。

この故事を思い出したのは、ロシアを単独で訪問した鈴木宗男参院議員がその結果を北海道で報告したのを見て、自見英子沖縄北方担当相も北海道を「視察」したと聞いたからだ。

10月初め、ロシアによるウクライナ侵略が続く中で訪口した鈴木氏は、現地で「ロシアの勝利を確信している」と発言。帰国後、北方領土の元島民らと北海道根室市で面会した際、墓参や北方領土周辺での日本漁船の安全操業をロシア側に要請したとして、ロシアとの関係を維持する政治家の必要性を力説した。

すると自見氏も北海道を視察。元島民との懇談会では交流事業の再開を「最優先の事項」とし、「特に北方墓参は重点を置いて進めていく」と語ったという。

崩れた四島返還

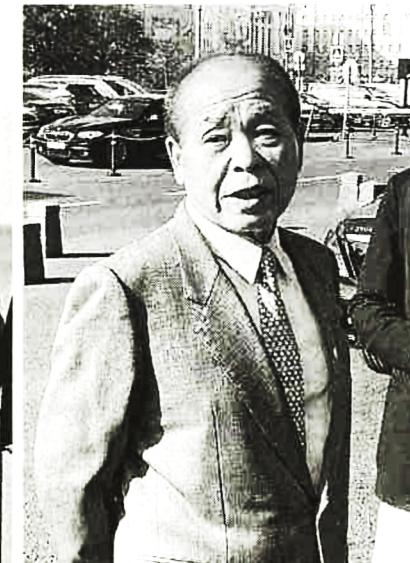
元島民らの墓参や「ビザなし交流」事業の中止は、ウクライナ侵攻への対口制裁に日本が参加したからだけではない。

ビザなし交流は本来、日本人と北方四島在住のロシ

専門性重視した起用を



北海道根室市の納沙布岬を訪れた自見英子沖縄北方相（右から2人目）=12日午前



モスクワで取材に応じる鈴木宗男参院議員=3日（共同）

ア人が相互理解を深め、四島返還のための環境づくりを目的に実施されていた。そのためビザなし交流事業では、北方四島に住むロシア人たちの日本訪問も行われていた。ところが2010年ごろから状況が変わった。それが04年と10年の2回、ビザなし交流で色丹島と国後島に渡った私にも実感できるものだった。10年9月、現地では「(当時の)プーチン首相が国後島を訪れる」というわざが流れていた。そして実際、11月にメドベ

その遠因は、2005年の3月に島根県議会が「竹島の日」条例を定めようとした際の日本政府の対処にあり。島根県をけん制し、日本政府が条例の成立を阻止

竹島問題が遠因

元島民らの墓参や「ビザなし交流」事業の中止は、ウクライナ侵攻への対口制裁に日本が参加したからだけではない。